



あ・そうかい通信

あ・そうかい 会報

第8号

2017年2月27日

発行：あ・そうかい

編集：運営委員会

活気あふれた新春の集い

2017年が明け、創立3年目の新春を迎えた「あ・そうかい」。1月12日、麻生市民交流館やまゆりで開かれた新年会は、いかにも新たな門出にふさわしい、活気あふれる集いとなった。

正月らしい和装やシャンパンを抜く景気のいい音で、いつにもまして華やかな空気が流れる会場。今回は40人(女性9人)が参加した。昨年の暑気払いの出席数を上回る盛況だ。中でも印象的だったのはふだん顔を合わせるのではない同士でもたちまち話が弾み、新入会員もすぐさま談笑の輪に溶け込んだこと。三つのテーブルすべてで和やかな語らいが一瞬も途切れない賑わいからは、「あ・そうかい」ならではの親しみやすさ、幅の広さがいつそう増してきたのがうかがえた。



会の後半はカラオケ。女性会員の「スーダラ節」の熱唱で一気に盛り上がると、後は威勢のいい演歌あり、しつとりと歌い上げるバラードあり。なつかしいフォークやグループサウンズでは大合唱が起こり、同世代の絆を強めた。会員数は60人に迫り、分科会も10まで増えた。新たな試みとしての「@さろん」もほぼ毎月開催。「やまゆり」

スタッフを務める会員も多く、そのアクティブな活動ぶりは他のグループからも注目を集



全員で、てきぱきと準備

めている。手分けしててきぱきと進んだ会の準備や後片付けからもみてとれるように、ますます息の合ってきたメンバーたち。さらなる発展への期待が膨らむ新年会だった。



語り合う、歌う、食べる、飲む

(文・佐藤次郎 写真・斎藤和彦)

魚眼・複眼

アンドレ・ジイドは「美しく死ぬことはさほど難しいことではない。だが美しく老いることは至難の業だ」と書いている。これは難しいかもしれないませんが「楽しく老いる」ことには、人一倍努力したいものです。たった一度の人生、なにごとにも楽しくなければ意味がありませんからね！

昨年「あ・そうかい」にはあつという間に数多くの分科会が生まれましたから、この心配は不要ですね。そして「男は、人間関係が財産となる時に、逆に定年と同時に人間関係が無に近くなる。女性は、年齢を重ねるほど人間関係にひろがりが出てくる。定年後は、女の発想にきりかえて地域中心にしないと、男は孤立してしまう」とありますが。今年にはボランティアを指す活動も始まり、「やまゆり」を活用した地域活動へ参加する機会も増えそうですね。お互い、良い時間を共有したいものです。